

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | 小池特別支援学校改築工事(第1期) | 階数 | 地上4F |
| 建設地 | 北九州市若松区小敷583番1 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 市街化調整区域、防火指定なし | 平均居住人員 | 225 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 2,500 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 学校 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2022年1月 予定 | 評価の実施日 | 2020年6月8日 |
| 敷地面積 | 27,420 m ² | 作成者 | 中田 敦 |
| 建築面積 | 2,978 m ² | 確認日 | 2020年6月8日 |
| 延床面積 | 6,225 m ² | 確認者 | 山田 祥子 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

| | |
|----------|------|
| ①参照値 | 100% |
| ②建築物の取組み | 89% |
| ③上記+②以外の | 89% |
| ④上記+ | 89% |

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.5

| | |
|-------|-----|
| 音環境 | 2.6 |
| 温熱環境 | 2.0 |
| 光・視環境 | 3.3 |
| 空気質環境 | 2.6 |

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

| | |
|-----|-----|
| 機能性 | 3.4 |
| 耐用性 | 3.3 |
| 対応性 | 3.3 |

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

| | |
|------|-----|
| 生物環境 | 1.0 |
| まちなみ | 3.0 |
| 地域性 | 3.0 |

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

| | |
|-------|-----|
| 建物外皮の | 5.0 |
| 自然エネ | 2.0 |
| 設備システ | 3.6 |
| 効率的 | 3.0 |

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

| | |
|--------|-----|
| 水資源 | 3.4 |
| 非再生材料の | 3.1 |
| 汚染物質 | 3.2 |

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

| | |
|-------|-----|
| 地球温暖化 | 3.4 |
| 地域環境 | 3.0 |
| 周辺環境 | 2.8 |

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--|---|--|
| 総合 既存地盤レベルを活かした計画としている。 配置の工夫によって既存樹を保存し、前面道路向かいの近隣住宅地に配慮した計画としている。 | | その他 |
| Q1 室内環境 屋光の利用に配慮した計画としている。教室間壁壁は遮音性能を考慮しボードの両面2重張りとする。 | Q2 サービス性能 バリアフリー新法建築物移動円滑化基準を満たしている。 設備更新や改修などを考慮した計画としている。 | Q3 室外環境(敷地内) 敷地外の空地を確保している。建物の配置を工夫し、景観に配慮した計画としている。 |
| LR1 エネルギー 太陽光発電設備を設置。モデル建物法による評価により BEE = 0.75。 | LR2 資源・マテリアル 部材断面が小さくなるPC梁を利用し使用材料の減少に考慮した。 節水型便器やOAフロアなど環境や資源の再利用に配慮した。 | LR3 敷地外環境 十分な駐車スペースを設け、近隣の交通負荷の抑制に配慮している。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される